

指導力評価の取りまとめの方向性について(たたき台)

・「生活者としての外国人」に対して日本語教育を行うための指導力について検討。取りまとめの方向性としては以下の三点が考えられる。

取りまとめの方向性	メリット	デメリットや留意点
<p>①指導力を評価する基準の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導力を評価するための基準の作成及び基準に基づく評価方法の開発 例) 5段階, A～C評価など 	<ul style="list-style-type: none"> 指導力評価の基準を運用して, 指導力を評価することにより, 個々の指導者の指導力の有無を明確に示すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の範囲を明確に設定する必要がある。 評価者の設定が必要であり, その確保や育成についても検討が必要である。 教育内容は地域により多様であると考えられるため, 指導力をどのようなスケールで示すか慎重な議論が必要である。 ボランティアを対象に含む場合, そもそも指導力を評価することが適切かどうかについて検討が必要である。
<p>②指導力の評価に係るポートフォリオの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導力について振り返り, 記録するための様式を作成 例) チェックシート, ポートフォリオなど。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の自己成長を促すことができる。 振り返りの項目を地域により選択してもらうことが可能であり, 多様性への対応が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 活用してもらうためには, 活用方法についての研修会や説明会が必要になる。 指導者の指導力の向上は指導者個人個人がいかにポートフォリオを活用するかということに委ねられる可能性がある。
<p>③指導力育成のための研修の枠組みの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導力を育成するための研修の枠組みを作成 例) 必要な能力の一覧と研修のメニュー表 	<ul style="list-style-type: none"> 指導力育成のための方向性の提示であり, 示しやすい。 各地ですすでに行われている指導者養成・研修につなげやすく, 成果物の活用が容易である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「指導力評価について検討する」ことになるかどうかについての議論が必要である。